

# 紀要

## ■設立40周年記念号

- 【小特集】東近江市相谷熊原遺跡をめぐって—縄文時代草創期の遺構と遺物**
- 「矢柄研磨器」雑考 —相谷熊原遺跡を理解するために— ……松室 孝樹(1)
- 鈴鹿山中の遺跡にみる選地の原理 —相谷熊原遺跡の理解に向けて— ……重田 勉(9)
- 土偶の機能・用途に関する理解の移ろい ……瀬口 眞司(15)
- \* \* \*
- 高島市今津町弘川B遺跡出土の縄文土器(2) ……小島 孝修(28)
- 草津市志那湖底遺跡出土岩田第4類土器群の様相 ……小竹森直子(42)
- 近江・湖東北部の埴輪 ……辻川 哲朗(48)
- 製鉄炉の設置方法について —源内峠遺跡1号製鉄炉の検討— ……大道 和人(73)
- 古代建築物構造ノート —掘立柱の再考— ……横田 洋三(81)
- 塩津起請文札と勧請された神仏 ……濱 修(86)
- 三重県桑名市西方廃寺出土の飛雲文軒瓦について  
—桑名市博物館所蔵品より— ……中西 常雄(92)
- 観音正寺と観音寺城跡(2) ……伊庭 功(95)
- 遺跡出土の化粧道具に関する覚書 —夏見城遺跡出土の毛抜きから— ……堀 真人(103)
- 将棋史研究ノート(5) 金将の役割 —金将の動きと配置から— ……三宅 弘(116)
- 「忍者」研究の現状と課題 ……阿刀 弘史(120)
- 文化遺産としての琵琶湖  
—「水」を介した人類と自然の永続的共生を示す資産群— ……大沼 芳幸(124)
- 平成22年度滋賀県埋蔵文化財センター考古学体験学習を終えて ……具志堅有紀(142)
- 保存処理30年の記録 ……中川 正人(148)

# 24

# 紀 要

第 24 号

—設立40周年記念号—

2011.3

財団法人 滋賀県文化財保護協会

## 遺跡出土の化粧道具に関する覚書

### 一夏見城遺跡出土の毛抜きから一

堀 真人

#### 1. はじめに

「化粧」を辞典（新村編1993）引くと「紅・白粉などをつけて顔をよそおい飾ること。美しく見えるよう、表面を磨いたり飾ったりすること」とある。また、より現代的な内容を知るためにインターネット上のオンライン百科事典 Wikipedia をみても「人間の顔や体に、白粉や口紅などの化粧品をつけて美しくみせること。祭礼などの儀式的化粧や舞台用の化粧もある。メイクアップ・メーキャップ、メイクともいう」とある。たしかに儀式や舞台のときを除くと現代においては、日常的に化粧を行うのは、女性のイメージが強い。しかし、近年では男女間の境があいまいになり男性用化粧品もめずらしくなくなりつつある。

さてその化粧の歴史をみても「顔をよそおい飾ること」という広義の化粧の理解にたてば、もっとも古くからある化粧に関わる道具は櫛であろう。日本においてその歴史は縄文時代まで遡ることができるが、現在の化粧に通じる「紅・白粉」をつけて顔を飾る形が整うのは奈良時代に入ってからといわれている。それは大陸との交流の中で形作られたと考えられている（久下1970・小松1989・ポーラ文化研究所1989）。

化粧道具について考えるきっかけは、平成19（2007）年度に発掘調査を実施した滋賀県湖南市夏見に所在する夏見城遺跡での真鍮製毛抜きの発見である（滋賀県教育委員会他2011）。夏見城は竹林中に土塁および溝の一部が地表観察で確認されているのみで、その詳細についてはまったく分かっていない状況であった。調査地は地表観察で確認できる土塁や溝から40m程度離れている地点であった。幅10m前後の細長いトレンチ調査であったが、調査区内からは複数の屋敷地を区切る溝が検出された。その溝は出土した遺物から15世紀後半から機能を開始し、16世紀第三四半期にはその機能を停止したことが分かった。この最終期は、おそらく織田信長による甲賀攻めが影響したのではないかと考えられる。

毛抜きは、夏見城を構成する屋敷地の区画溝の一つから出土した。出土した溝は、遺物から15世紀後半から16世紀後半代の年代が与えられ、その中で毛抜きが出土した層位は16世紀前半代に帰属する。出土している遺物には中国製の天目茶碗をはじめとして、喫茶に関わる茶陶等がある。

毛抜きは蛍光X線分析の結果、真鍮製であることが判明している。長さは8cm、幅は根元で0.7cm、挟み部で1.5cm、先端部で広がる撥形を呈している。重さは15.6gで、挟み部の一部が曲がっているものの完形品である。そして、特徴は手持ち部にある文様である。一面は鶴が翼を広げた

姿が描かれ、もう一面には、水生植物の沢瀉（おもだか）を描いている。ともに全体の輪郭を蹴彫で表現し、鶴の目の部分を魚々子、翼の羽根の表現を毛彫で、沢瀉の花は魚々子で表現しており、美術的にも非常に優品である。

#### 2. 疑問点の提示

夏見城遺跡から出土した毛抜きのような美術的に優れた品持っていたのはどのような人であったのか。この疑問は誰しもが思い浮かべるであろう。それは男性であるのか、女性であるのか、そしてどのような場面で当時化粧道具が使われていたものか、それらを知りたいと思ったのが本論のきっかけである。

それらの疑問は、以下の二点に集約できる。

①化粧道具、毛抜きを使った人はどのような人なのか。

つまり男性なのか、女性なのか、どのような階層の人が使うものなのか。

②どのように使ったのか。

そこで、この2点の疑問を解決するための作業を以下のように進めていきたい。

①は考古学的にアプローチするには非常に困難な課題である。男性なのか、女性なのか、これを解決する方法として墓から出土する副葬品に注目してみる。参考となるのは古代の墓を中心に副葬品の組み合わせから、埋葬された人物の性差を明らかにした秋山浩三氏の仕事である（秋山1999）。その組み合わせとは、男性墓＝武器類、女性墓＝化粧道具類の副葬である。そして古代にとどまらず中世に入ってもその傾向は継続し、男女両方の特性、つまり武器類が副葬されながら化粧道具類も副葬されるパターンの場合には、男性の特性が優先されるとの見通しを提示している。なお、鏡に関しては10世紀代に性格の変化が見られ、祭祀・呪術品から実用品に転換することを指摘している。そこで、この視点で秋山氏の集成（1999年）以降の調査例および中世以降の副葬される化粧道具、特に毛抜きを中心に概観して検討する。

②は①以上に考古学的なアプローチが難しいことから、文献史料や絵画資料を参考にする。

#### 3. 遺跡出土化粧道具の事例

遺跡出土の化粧道具を検索する前に、まず化粧道具とはどのようなものがあるのか明らかにしておきたい。そのために神社に奉納され、伝世した品をみておく。

（1）伝世化粧道具の事例

化粧道具セット関係が明らかになっている熊野速玉大社・三島大社の伝世手箱をみる。

①熊野速玉大社所蔵 桐蒔絵手箱（小松1989・東京国立博物館2000・関根2008）

和歌山県熊野速玉大社には複数の手箱が伝世している。中でも桐蒔絵手箱には化粧道具が一式揃っており、当時の化粧道具の内容を知ることができる資料である。神社に伝わる記録から明徳元年（1390年）に足利義満と諸国の守護によって奉納されたものであることが分かっている。その内容品は以下のとおりである（数字は点数）。

- ・懸子 2
- ・鏡箱 1（鏡 1）
- ・白粉箱 2
- ・薫箱 2
- ・お歯黒箱 2
- ・櫛箱（銀製とき櫛 1・蒔絵すき櫛 29・銀製櫛払い）
- ・菊花形皿 3
- ・紅皿 1
- ・眉作 1
- ・銀製毛抜き 1
- ・銀製鋏 1
- ・銀製耳搔 1
- ・銀製髪搔 2

②三島大社所蔵 梅蒔絵手箱（小松1989・東京国立博物館編2000）

静岡県三島大社に伝世している手箱で、北条正子が奉納したといわれている。13世紀のものと考えられており、化粧道具が一式揃いで残っている最古の例である。その内容品は以下のとおりである（数字は点数）。

- ・懸子 2
- ・鏡箱 1（鏡 1）
- ・白粉箱 2
- ・薫物箱 2
- ・お歯黒箱 2
- ・とき櫛 3
- ・すき櫛 27
- ・櫛払い 1
- ・合子 3
- ・眉作 1
- ・毛抜き 1
- ・鋏 1
- ・髪搔 1
- ・元結 10

二つの伝世品の事例から基本的な化粧道具の組み合わせは、鏡・櫛類・口紅道具（紅皿・紅筆）・眉作道具（毛抜

き・眉作り）・鋏・その他（耳搔・髪搔・元結）であることが分かる。なお、これらの入れ物（手箱）を含めた道具類の原材料が鉄製品・木製品・有機質（布・毛）などであることには留意しておかなくてはならない。つまり、出土品の場合、遺存条件（周辺の自然環境も含めて）に左右されるからである。このことから、化粧道具の副葬をこの中の複数の品が含まれることを目安とし、夏見城遺跡出土の毛抜きの持ち主像に迫る意味から、化粧道具の中でも毛抜きのあり方に注目していくこととする。

（2）遺跡出土化粧道具の事例（図 1～3）

①博多遺跡群 683号土壙（福岡市教育委員会1988）

福岡県福岡市に所在する弥生時代以降近世に至る複合遺跡である。

683号土壙は木棺墓と考えられる。掘形は長さ276cm、幅約90cm、深さ45cmで、その中に長さ192cm、幅40～48cm、深さ33cmの木棺が復元される。棺材はすでに朽ちており、副葬品と下顎骨と大腿骨が残るのみであった。化粧道具は棺内の頭部付近で化粧箱に入れられて副葬されていた。それ以外の副葬品は、龍泉窯系青磁碗 1点、龍泉窯系青磁皿 4点、土師皿 6点、土師杯 1点である。

化粧箱は長辺約23cm、短辺約16cm、深さは約6cmの木地に黒漆を塗ったもので、蓋には四周に金で葉、銀で花を描いた桜花文をあしらっている。箱内には懸子があり、その中には湖州八稜鏡、櫛（とき櫛 1・すき櫛 2）・鋏・毛抜き（報告書では鑷と記載）・櫛払い・刷毛があった。懸子下にはお歯黒壺である褐釉小壺、元結（報告書は水引と記載）が入っていた。毛抜きは鉄製で長さ12cmを測る。挟み部+手持ち部+棒が付いた特徴的な形態である。

出土している青磁などから時期は12世紀中頃である。

②七反田遺跡 SK01（福岡市教育委員会1990）

福岡県福岡市に所在する遺跡で、古墳時代の集落跡および水辺の祭祀跡、古代の製鉄関連遺構が検出されている。

SK01は東西に長軸を向ける土壙墓である。長さが140cm、幅60cm、深さは遺構検出面より20cmを測る。副葬品は青白磁合子 1点、木製の鞘付の短刀 1点、漆塗りの箱入りの鏡 1点、毛抜き 1点、白磁小碗 1点、白磁皿 1点、土師皿 1点である。合子・短刀・鏡が出土した地点は赤褐色に変色していることから、化粧箱に入っていたものと考えられる。毛抜きは端部が欠損しており、残存長6.4cmである。

時期は出土している土器・鏡から12世紀代である。

③馬場遺跡 墓（日本道路公団中国支社他2001）

島根県飯石郡三刀屋町（現雲南市）に所在する遺跡である。

墓は掘形が長さ420cm、幅210cm、深さは遺構検出面から70cmを測る。釘が多量に出土していることから木棺墓である可能性が高い。副葬品は須恵器壺 2点、土師器高坏 2点、土師器杯 7点、土師器皿 3点、大刀 1点、刀子 1点、

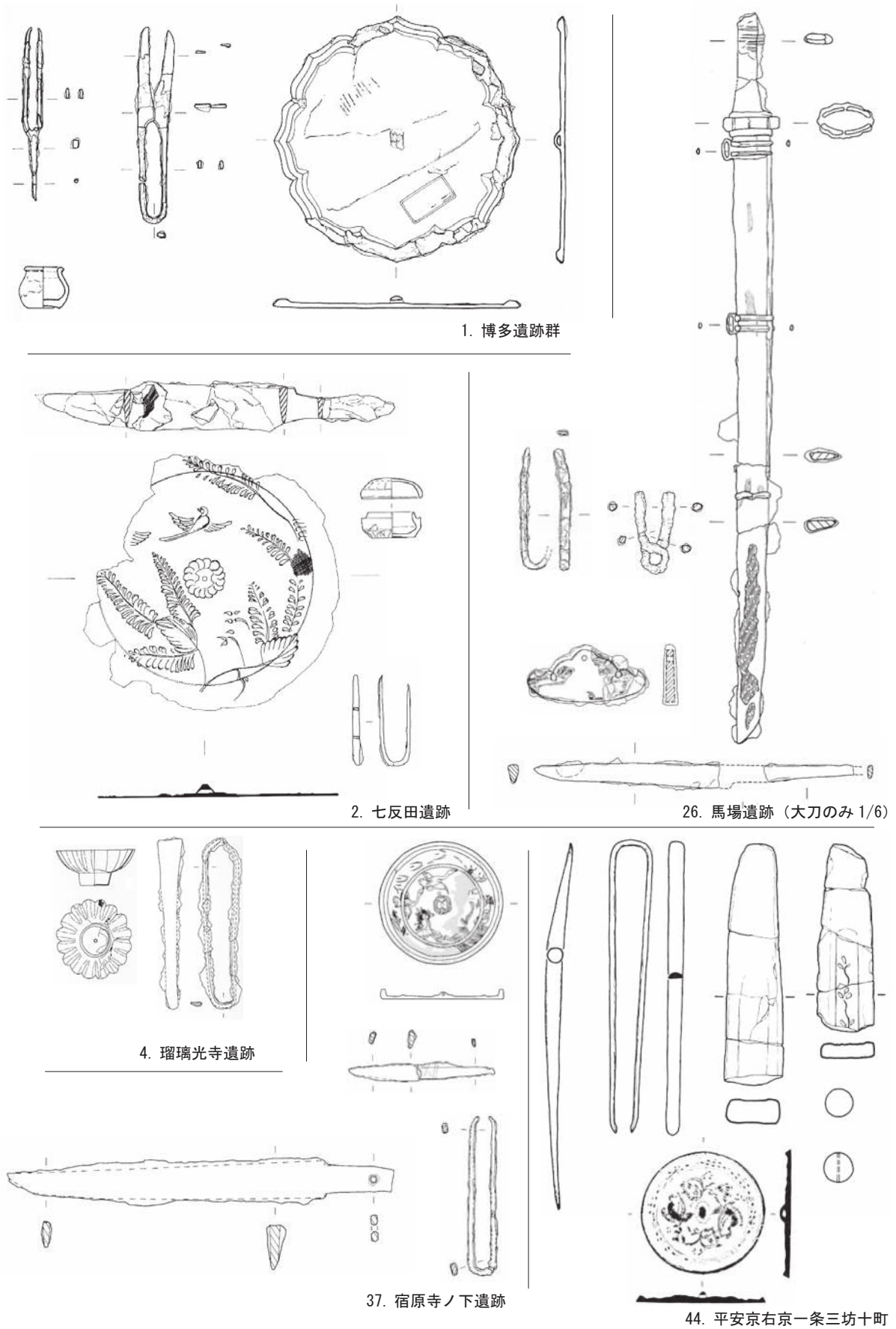


図1 遺跡出土の化粧道具類1 (1/4: 番号は表と一致)

毛抜き、鋏、火打ち金、玉類22点が出土している。

時期は出土している土器から10世紀後半～11世紀初頭である。

④門前第2遺跡（鳥取県埋蔵文化財センター 2007）

鳥取県西伯郡大山町に所在する遺跡である。近世の集団墓地が検出されている。そのうち5基で化粧道具が確認されている。

・墓55

墓壙は長軸110cm、短軸100cmのほぼ方形を呈し、深さは遺構検出面から110cmを測る。副葬品は鉄製鎌1点、鋏1点、毛抜き1点、木製数珠玉、銅銭2枚である。人骨が残っており鑑定の結果女性であることが分かっている。時期は18世紀後半である。

・墓67

墓壙は長軸90cm、短軸70cm、深さが遺構検出面から90cmを測る。釘が20数本出土していることから木棺に入れられていた可能性が高い。副葬品は鉄製の鎌1点、真鍮製？毛抜き（報告書では銅合金と記載）1点、刀子1点、銅銭12枚が出土している。毛抜きと銅銭は布袋に入っていたようである。人骨が残っており鑑定の結果女性であることが分かっている。時期は18世紀前半から中頃である。

・墓80

墓壙は長軸120cm、短軸90cm、深さは遺構検出面から80cmを測る。釘が40点と木片が確認されていることから木棺が入っていた可能性が高い。副葬品は鉄鎌1点、鋏1点、毛抜き1点、ガラス製数珠玉、銅銭37枚が出土している。鎌・毛抜き・数珠・銅銭28枚は布袋に入っていたようである。人骨が残っており鑑定の結果男性であることが分かっている。時期は18世紀前半～中頃である。

・墓129

墓壙は長軸100cm、短軸85cm、深さは遺構検出面から40cmを測る。副葬品は刀子1点、鋏1点、鉄銭5枚、銅銭13枚、毛抜き1点、煙管1点である。人骨が残っており鑑定の結果女性であることが分かっている。時期は18世紀後半～19世紀前半である。

・墓135

墓壙は長軸125cm、短軸85cm、深さは遺構検出面から70cmを測る。釘が30点出土していることから木棺に入れられていたと考えられる。副葬品は鋏1点、毛抜き1点、銅銭3枚、鉄銭1枚である。人骨が残っており鑑定の結果男性であることが分かっている。時期は18世紀である。

⑤土井遺跡 墓47（岡山県教育委員会2005）

岡山県赤磐郡熊山町（現赤磐市）に所在する。墓45は墓壙の平面が125cm×85cmの長方形を呈し、深さは遺構検出面から約70cmを測る。その墓壙内に備前焼の大甕を入れ棺にしている。副葬品は肥前系磁器、針、毛抜きである。人骨が残っており鑑定の結果女性であることが分かっている。時期は17世紀後半である。

⑥瑠璃光寺跡 第55号墓（山口県教育委員会1988）

山口県山口市に所在する遺跡である。

墓壙は長軸が110cm、短軸108cm、深さは遺構検出面から73cmを測る。墓壙埋土上面に置き石をしている。木棺を使用しており、その木棺も鉄製の蝶番・引き手金具等が出土していることから家具を転用したものと考えられる。副葬品は土師皿4、銅製の菊形皿（紅皿）1点、鉄製の毛抜きである。時期は16世紀代である。

⑦津万遺跡群 3E区土壙墓（兵庫県立考古博物館2009）

兵庫県西脇市に所在する弥生時代～鎌倉時代にかけての複合遺跡である。

3E区土壙墓は長さ166cm、幅110cm、深さ20cmを測る。副葬品としては方形銅鏡（湖州鏡）1面、鉄製鋏1点、鉄製毛抜き1点、刀子1点、針状鉄製品1点、串状鉄製品1点、青白磁合子1点、白磁碗1点、土師器小壺1点、土師器小皿5点が納められていた。

出土している土器類から時期は12世紀後半である。

⑧多利・前田遺跡 SX1（兵庫県教育委員会1987・加古他1989）

兵庫県氷上郡春日町（現丹波市）に所在する平安時代末の屋敷地がみつかった遺跡である。

SX1はおおむね東西に長軸を向け、長軸180cm、短軸110cm、深さが遺構検出面から25cmを測る土壙墓である。

副葬品は鏡（瑞花鴛鴦鏡）1面・鉄製鋏1点・鉄製毛抜き1点・鉄製刀子1点・不明鉄製品2点・青白磁3点（壺身・壺蓋・合子）・白磁皿1点・土師皿8点・漆箱1点・木箱1点である。出土状況から和鏡は箱に入れられ、他の副葬品のうち鋏以外は漆の箱に納められていた。毛抜きは端部が欠損しており、残存長9.5cmである。

時期は土器類から13世紀前半と考えられる。

⑨宿原寺ノ下遺跡 SX205（兵庫県教育委員会2004）

兵庫県三木市に所在する弥生時代から近世に至る複合遺跡である。その中で鎌倉時代の建物群にともなって木棺墓が検出されている。

SX205は長軸を東西に向ける。掘形が長さ170cm、幅66cm、深さ23cmで、木棺の大きさは痕跡より長さ140cm、幅43cmと考えられる。副葬品として鏡1面、鉄製毛抜き1点、須恵器椀、須恵器小皿、鉄製刀子1点、小皿状の漆製品1点である。鏡には布が付着し、木片に挟まれた状態で検出されていることから布に包まれ箱に入っていたと考えられる。小皿状の漆製品は紅皿の可能性を調査担当者は考えている。また、周辺で確認されている有機質を化粧箱の痕跡とし、鏡・毛抜き・紅皿が納められていたと復元している。毛抜きは鉄製で長さ11.2cmである。

時期は出土している土器・鏡から12世紀中頃である。

⑩野田遺跡I 土坑SK1（高知県教育委員会他2002）

高知県土佐市高岡町に所在する縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。調査では中世の屋敷地が検出されて

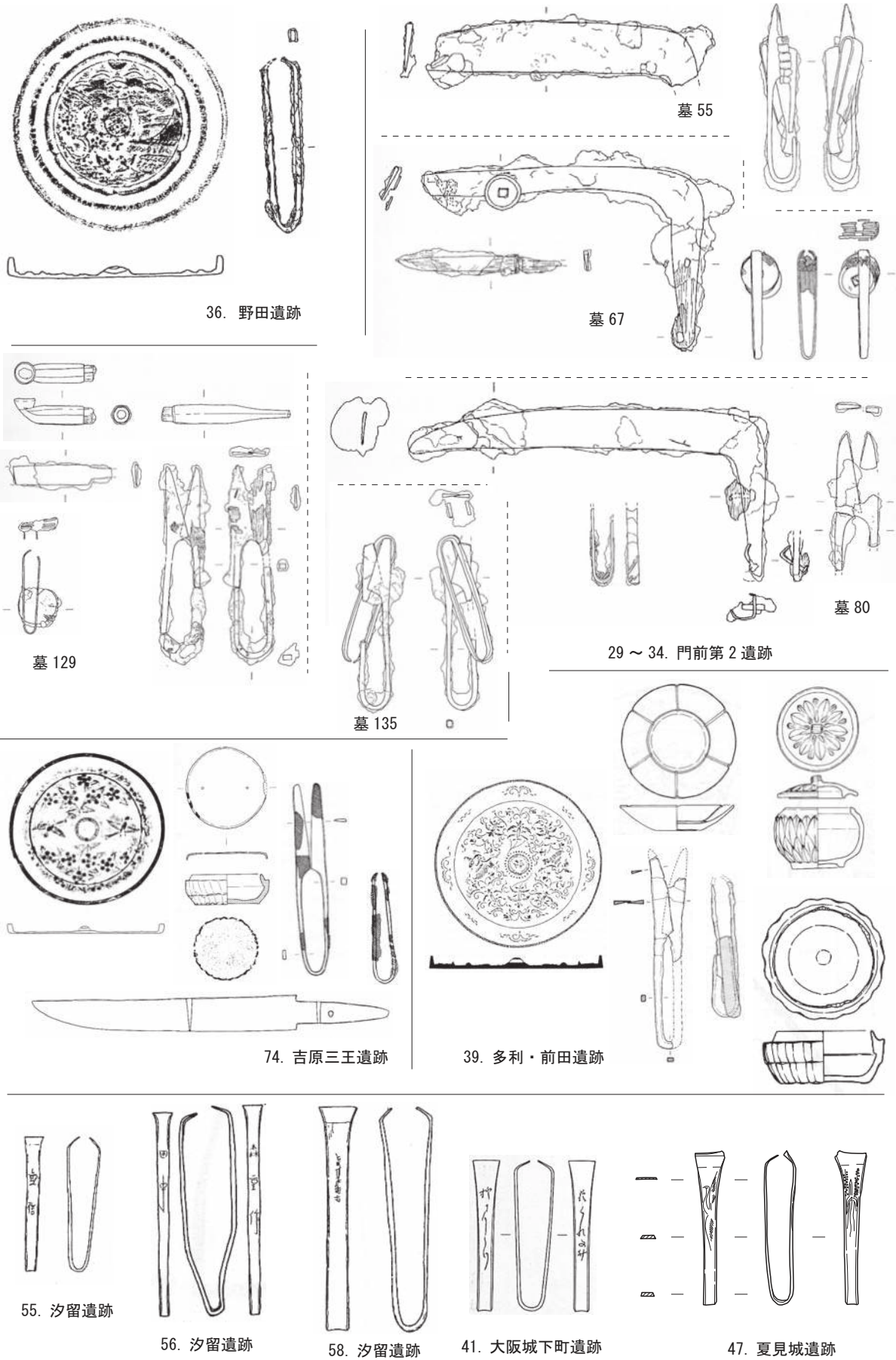


図 2 遺跡出土化粧道具類 2 (1/4・最下段は1/3: 番号は表に一致)

おり、溝や掘立柱建物が確認されている。

土坑S K 1は長径110cm、短径100cm、深さ101cmを測る。木棺などの痕跡が認められないことから土墳墓と考えられる。遺物は底部から鏡、毛抜き、銭貨が出土している。毛抜きは全長9.1cmでピンセット型を呈している。銭貨は皇宗通寶である。

時期は鏡の形態から14世紀後半から15世紀代と考えられる。

⑪平安京右京三条三坊十町 S X 46（財団法人京都市埋蔵文化財研究所1990）

S X 46は木棺墓で、掘形が長さ180cm、幅60cm、深さ30cmを測り、長辺をほぼ南北にとる。木棺は掘形の底部に長さ165cm、幅40cmの板を敷きその四隅に長さ30cm×3～5cmの板材を立て、その外方から側板を各面1枚ずつ当て、蓋板で覆う構造である。ただし、側板はほとんど残っておらず、底板と蓋板が残っていたのみである。骨等は遺存していない。

副葬品は須恵器壺2点、黒色土器椀、土師皿、鏡、化粧道具である。須恵器壺は南東隅と北西隅、黒色土器椀は中央南南寄り西側、鏡は中央北寄り東側、化粧道具は北端に置かれていた。化粧道具は漆皮箱に入れられており、その内容物は漆器皿、合子、串状木製品、銅製毛抜き（ピンセット状銅製品と報告書記載）、玉、墨である。毛抜きは、報告書に表現されているようにピンセット状、つまり現在の形状と同様の形を呈している。また鏡には布と木痕が付着していることから布に包んだ後、木箱に入れていたと考えられる。

時期は副葬品の土器類から10世紀前半である。

⑫吉原三王遺跡 501土墳（日本道路公団他1990）

千葉県佐原市に所在する旧石器時代から近世に至る複合遺跡である。平安時代の集落跡が中心である。501土墳の時期には周辺に土墳が集中しており、墓域であった可能性がある。

501号土墳は平面形が92cm×87cmの隅丸方形を呈している。深さは遺構検出面から5cmであることから後世に削平されたと考えられる。副葬品は鏡1点・銅製の蓋付青白磁合子1点、青磁碗1点、鉄製短刀1点、鉄製鋏1点、鉄製毛抜き1点が底面に集中して出土している。鏡は布に包まれて箱に入れられていたと考えられる。毛抜きは長さ7.7cmである。

時期は出土している土器・鏡から12世紀末～13世紀である。

⑬河崎の柵擬定地（財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター他2006）

岩手県東磐井郡川崎村に所在する縄文時代以降古代・中近世に至る複合遺跡である。化粧道具が出土している近世墓は10基である。

・B区S Z 6

墓墳は125cm×102cmで深さ65cmを測る。釘が出土していることより木棺墓であった可能性が高いが、痕跡は確認されていない。副葬品は銅銭6枚、煙管2点、鏡1点、刀子1点、簪1点、毛抜き1点、お歯黒壺1点、磁器合子1点、磁器徳利1点、磁器小杯である。人骨が残っており鑑定の結果女性であることが分かっている。時期は18世紀前半である。

・B区S Z 27

墓墳は77cm×66cm、深さは遺構検出面から22cmを測る。副葬品は銅銭24枚、煙管2点、刀子1点、毛抜き、鉄銭である。人骨が残っており鑑定結果から女性であることが分かっている。時期は18世紀中頃である。

・B区S Z 46

墓墳は128cm×87cm、深さは遺構検出面から27cmである。副葬品は毛抜きのみである。人骨が残っており鑑定の結果男性であることが分かっている。時期は不明である。

・B区S Z 57

墓墳は165cm×156cm、深さは遺構検出面から105cmを測る。副葬品は銅銭54枚、煙管1点、柄鏡1点、鋏1点、毛抜き1点、小刀1点、簪1点、火打ち金1点、提灯1点である。人骨が出土しており鑑定の結果女性であることが分かっている。時期は18世紀前半である。

・D区S Z 1

墓墳は98cm×89cm、深さは遺構検出面から31cmを測る。副葬品は銅銭6枚、煙管2点、刀子1点、毛抜き1点、簪1点、陶器乗燭1点である。人骨が残っており鑑定の結果女性であることが分かっている。時期は17世紀後半である。

・D区S Z 9

墓墳は105cm×90cm、深さは遺構検出面から75cmを測る。副葬品は銅銭6点、煙管1点、小柄2点、毛抜き1点、火打ち金、ボタン型銅金具1点である。性別は不明で、時期は18世紀中頃である。

・D区S Z 49

墓墳は長軸が120cm、短軸の残存が80cm、深さは遺構検出面から43cmを測る。副葬品は煙管2点、柄鏡1点、刀子1点、鋏1点、毛抜き1点、火打ち金1点、鉄銭である。人骨が残っており鑑定の結果男性であることが分かっている。時期は18世紀後半である。

・D区S Z 58

墓墳は長軸が残存120cm、短軸が80cm、深さが遺構検出面から60cmを測る。副葬品は銅銭6枚、煙管2点、毛抜き1点、磁器1点である。人骨が残っており鑑定の結果女性であることが分かっている。時期は17世紀後半である。

・D区S Z 66

墓墳は135cm×103cm、深さが遺構検出面から70cmを測る。副葬品は銅銭8点、煙管2点、刀子1点、小刀1点、毛抜き1点である。人骨が残っており鑑定の結果男性であることが分かっている。時期は17世紀中頃である。



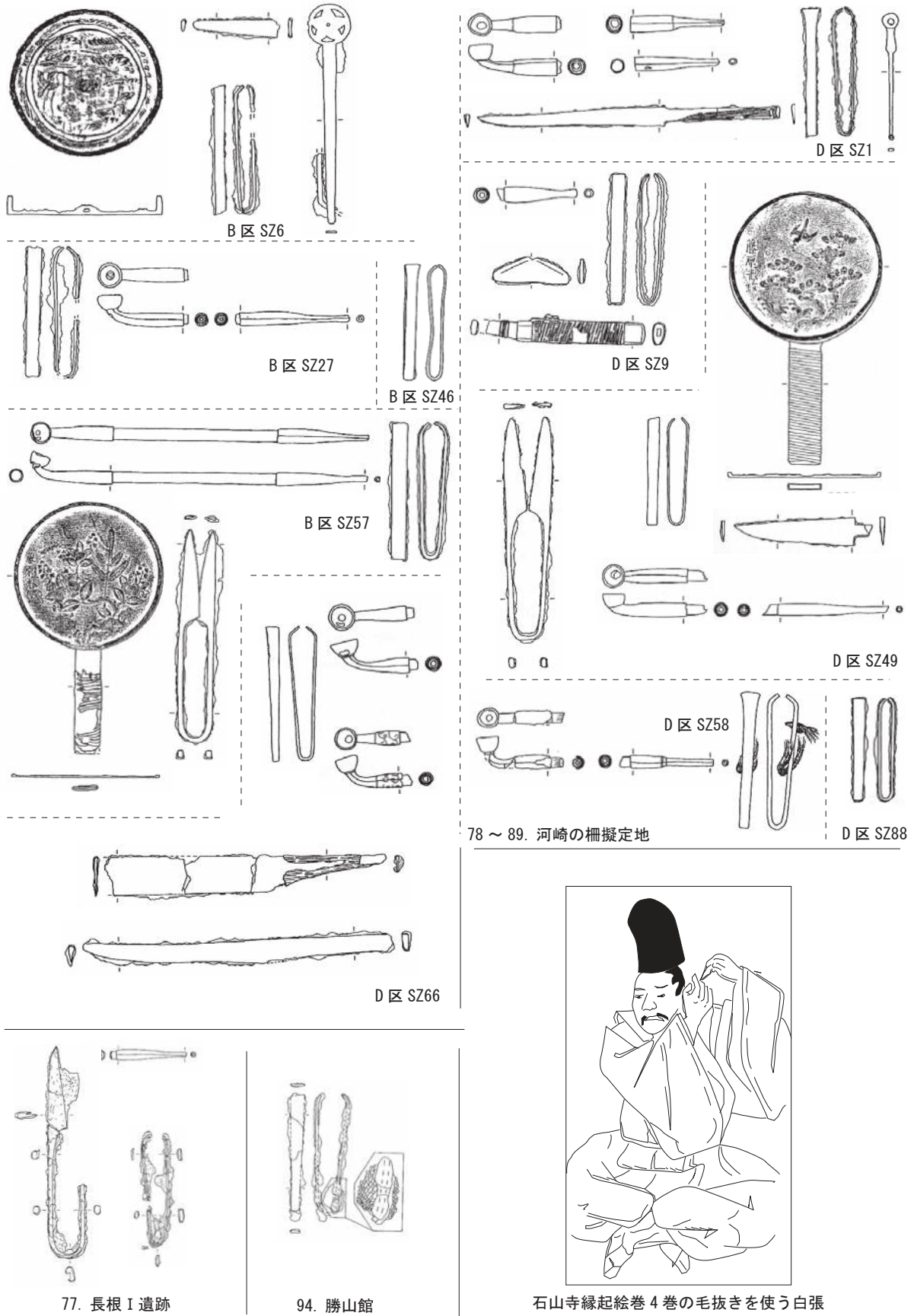


図3 遺跡出土の化粧道具類 (1/4: 番号は表と一致)

・D区S Z88

墓壙は他の土壙に切られており平面形の詳細は不明である。副葬品は煙管2点、刃物？1点、毛抜き1点、鉄銭である。人骨が残っており鑑定の結果男性であることが分かっている。時期は18世紀中頃である。

⑭長根I遺跡 2号墓壙（国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所他2006）

岩手県花巻市に所在する古墳群が見つかった遺跡である。

2号墓壙は他の墓壙と切り合っており平面形態を確定し難いが、137cm×100～120cm程度で、深さは遺構検出面から65cmを測る。釘が多数出土していることから木棺が入れていた可能性が高い。副葬品は煙管1点、毛抜き2点、鋏1点、銅銭3枚である。人骨が残っており鑑定の結果男性であることが分かっている。時期は17世紀末以降である。

⑮勝山館跡 135号墓（上ノ国町教育委員会2005）

北海道檜山郡上ノ国町に所在する遺跡である。

墓壙は直径120cmの円形を呈し、深さは遺構検出面から20cmを測る。釘が出土していること、土層観察でも痕跡が確認できることから木棺が入っていたと考えられる。副葬品は銅銭9枚、毛抜き1点である。毛抜きには布が付着していたことから布袋に入っていたものと考えられる。時期は15世紀後半である。

4. 遺跡出土の化粧道具の検索結果から

化粧道具が出土している15遺跡28例を概観した。

**時期** 最も古い例は平安京右京三条三坊十町S X46の10世紀前半で、最も事例の多い時期は17世紀から18世紀代である。12世紀から13世紀の墓はいわゆる屋敷墓的な様相を呈している。一方、数が増加する17世紀以降は集団墓地といってもよい。この近世の墓の事例については、検索漏れの可能性があり、実態としてはさらに多くなることが予想される。ここでは事例数のあり方から仮に前者（12世紀から14世紀）をI期、後者（15世紀～）をII期として話をすすめる。

**副葬内容** 時期的な分布と同じく12世紀から13世紀代の墓から出土する化粧道具は、伝世品のあり方と同様に鏡・櫛・毛抜き・鋏・紅皿等の基本セットものが化粧箱（手箱）に納められて副葬される例が多い。15世紀以降は数点の化粧道具（鏡と毛抜き・鋏と毛抜き等）が銭貨といっしょに納められるようになるようである。I期とII期では墓のあり方・種類（屋敷墓と集団墓地）の違いを示している可能性もあるが、化粧道具を数点とはいえ、副葬することできるまで一般化したとも言い換えることができる。つまり、墓の副葬のあり方からいえば、古代末から中世にかけては一部の階層のみが副葬できる品であったものが、近世に入って一般的に副葬することができる品になったのだろう。これは化粧文化が一般化したことを示しているともいえ

る<sup>(1)</sup>。

**性差** 性差については、秋山氏の成果を援用するならば、I期はほとんどが女性であるといえる。ただし、馬場遺跡の事例は太刀を、宿原寺ノ下遺跡の事例は短刀を副葬していることから男性的要素を優先させ、男性である可能性が高い<sup>(2)</sup>。II期は副葬品のみから性差をみていくと、煙管+銭貨+毛抜き+鋏のパターンが多くみられる。この組み合わせからすれば、化粧道具であることを重視して、女性である可能性が高いと考えられる。煙管はII期のみにもみられる副葬品であるが、男性・女性どちらにも副葬されることから（森原2004）、性差は反映していない。

また、II期の墓では人骨が残存している事例が多くみられ、その鑑定結果をみると数は多くないものの一定程度上記の副葬品の組み合わせに男性が含まれていることが明らかとなっている。

**小結** これらのことからI期では副葬品から明確に男女を区別することができたが、II期には単純に化粧道具の副葬＝女性の可能性大、では無くなることがわかった。

5. 文献史料・絵図資料に見られる毛抜き

では、毛抜きの使用方法とはどのようなものであったのだろうか。文献・絵図からみてみることにする。

（1）文献史料 『枕草子』（松尾ほか訳注1999）

化粧道具、特に毛抜きに関して記載されている文で有名なものに清少納言によって書かれた『枕草子』の一文がある。

「物のあはれ知らせ顔なるもの

はな垂り、まもなうかみつつ物いふ声。眉抜く」

（何かにつけて、しみじみとした気持ちを知らせ顔であるもの。

鼻が垂れて、ひっきりなしに鼻をかみながら物を言う声。眉を抜くときの顔。）

「ありがたきもの

舅にほめらるる婿。また、姑に思はるる嫁の君。毛のよく抜くる銀（しろかね）の毛抜き。主そしらぬ従者」

（めったにないもの

舅にほめられる婿、姑にかわいがられる嫁君、毛がよく抜ける銀の毛抜き、主人の悪口を言わない従者。）

この内容から宮中の女性が日常的に眉毛を抜くことが行われ、さらにその際に使う毛抜きに銀製のものがあつたことがうかがえる。

（2）絵画資料

石山寺縁起絵巻（澁澤他1990・小松1993） 石山寺縁起絵巻の四巻の一場面（図3）である。四巻は室町時代に補写されたものといわれている。後一条天皇が病に倒れたため、

石山寺に頭中将藤原公成を遣わし、座主の深覚大僧正に修法を依頼しに来た場面である。石山寺の中門付近に白張と童、寺の専当が描かれている。その中の白張の一人に毛抜きを用いて髪を整えている姿が見受けられるのである。

描かれた当時の習慣を示しているとするならば、宮中の貴族（公家）のような特別な人だけではなく、供人においても毛抜きを使っていること、そして毛抜きを使うのが女性だけではなく男性も使用していたことがわかる例である。

### （3）小結

文献史料である『枕草子』、絵画資料である『石山寺縁起絵巻』から分かることは以下のとおりである。

- ①平安時代の宮中では眉を毛抜きで処理していた。
- ②毛抜きには銀製のものがある。
- ③室町時代の認識では貴族（公家）だけでなく供人も毛抜きを使用していた。
- ④女性だけではなく男性も使用していた。

## 6. 出土毛抜きについて

夏見城遺跡出土毛抜きの特徴を再確認するために、遺跡から出土した毛抜きを集成し（表1・2）、その傾向について概観しておきたい。

**出土遺跡・遺構** 遺跡から出土している毛抜きはすでに事例をあげた墓の副葬品以外に、城館や城下町の屋敷地から多数出土しており、管見では94例を数える。

**時期** 古いものは10世紀代である。近世以降になると事例が急増する。

**素材** ほとんどが鉄製で、近世に入ると真鍮製がみられるようになる。枕草子で登場する「銀製の毛抜き」は速玉大社の手箱内の品において存在しているのみである。

**形状** 現在の毛抜きとほぼ変わらず、端部の摘み部が広がるものと平行で真っすぐおさまるものの二種類が見られる。時期的・地域的にその差異は認められない。ただし、博多遺跡群出土品は「U」字形の湾曲している部分の後ろに棒状の突起が付属し「Y」字形を呈している特殊な例もある。

**装飾** 装飾がされている毛抜きは、速玉大社伝世品の中に存在するのみである。渦巻状の文様を彫った銀製の品である。その他に文様ではないが、文字が彫られている品がある（図2）。大坂城下町出土品（財団法人大阪市文化財協会2004）と汐留遺跡出土品（東京都埋蔵文化財センター1997）である。

大坂城下町出土品は包含層から出土している。時期は17世紀である。長さ8cm、先端の摘み部が広がる撥形を呈している。手持ち部に文字が彫りこまれている。彫りこまれている文字は「柳みどり」「花くれない」とある<sup>(3)</sup>。「柳緑花紅」という宋代の詩人蘇東坡に一節ちなんだ語句である。物が自然のままでも少しも人工が加えられていないことのとえとして使われ、禅の悟りの心境をあらわす文句である。

汐留遺跡出土品は3点で、ともに脇坂家地点から出土している。時期は18世紀である。55（表2の番号。以下同。）は長さ7cm、先端の摘み部が広がる撥形を呈している。真鍮製である。手持ち部には「重信？」の文字が彫られている。56は長さ10.8cm、先端の摘み部が広がる撥形を呈している。真鍮製である。手持ち部には「森重作」「田中」の文字が彫られている。58は7.8cm、先端の摘み部が広がる撥形を呈している。真鍮製である。手持ち部に文字が彫られているが読むことができない。

**小結** 大坂城下町出土品と汐留遺跡はともに文字を彫りこんでいるが、彫られているその内容に大きな違いを読み取ることができる。大坂城下町遺跡出土品は禅問答に使われる語句を彫りこんでいることから、所有者の知的階層の高さやモノへのこだわりが読み取れ、一品モノである可能性が高い。一方、汐留遺跡出土品は製作者名の可能性が高く、一品モノというよりはむしろ量産品と思われる点で異なるだろう。

## 7. 夏見城遺跡出土毛抜きの位置付け

様々な観点から、夏見城遺跡出土の毛抜きの所有者像を知るためのヒントを探してきた。

遺跡から出土する資料においては、10世紀の墓の副葬品が最も古く、近世以降に資料数が急増する。これは化粧文化が特別な階層のみであったものが、一般化する流れの中で理解することができる。このことは化粧道具の中の一品である毛抜きについても同様のことがいえ、近世に書かれた歌舞伎や狂言の中で小道具として毛抜きが登場することは象徴的であろう。枕草子が書かれた10世紀末から11世紀頃には、宮中で眉抜きに毛抜きが使われていた。石山寺縁起絵巻に描かれているのは、15世紀代には宮中の貴族（公家）だけではなくその供人が使っている姿である。これは毛抜きを女性だけでなく男性も使用していることを示している。墓の副葬品においても、近世以降の集団墓に副葬される毛抜きが男女ともに認められることからこれを裏付けているだろう。

モノの価値的な面をみると、夏見城遺跡出土品のように装飾する事例は、神社に奉納された特殊な例を除けば、ほとんどないといってよいだろう。装飾する事例は職人等の名前を彫りこんだもので、文様というよりはむしろ商標的な意味合いが強いものである。ただし、大坂城下町出土品は禅問答に使われる語句を彫っており、伝世手箱の蒔絵に通ずる<sup>(4)</sup>意匠といえ、中世的な要素を残しているものと思われる。

これらを総合的に考え、夏見城遺跡の毛抜きの所有者像についてわかったことをまとめてみると以下のとおりである。

・所有者は男性か女性かは確定することができない。毛抜きの使用が男女ともにみられることは副葬品・絵図から

も明らかであるためである。

・夏見城遺跡出土の鶴・沢瀉の文様を小物に施す行為は、神社に奉納された伝世品に通じるもので、中世的な様相である。遺跡出土品においては大坂城下町出土品にその流れを汲みとることができる。

## 8. おわりに

結論としては、所有者の性別を明らかにすることができないことがわかったが、毛抜きの意匠からみればおそらく一品モノであった可能性が高く、近世以降に量産化される以前の古い様式を残す品であろう。そして、大坂城下町出土品にみられるように、持ち主のこだわりが垣間見える品である。

夏見城遺跡から毛抜きが出土したことをきっかけとし、その所有者像を探るため遺跡から出土した古代から近世に至る化粧道具、特に毛抜きに注目した。残念ながら夏見城遺跡から出土した毛抜きが単品（化粧道具の一部）であることや、男女両性に使用がみられる時期であるため性差は明らかにすることができなかつた。しかし、夏見城遺跡出土の毛抜きは化粧文化（化粧道具）が一部の特殊な階層だけのものから、広く一般に普及する変革期に位置付けられるなか、古い様相（特殊な階層のみで使用されていた時期の様相）を色濃く残していることがわかった。

今回は、毛抜きに焦点を絞って幅広い時期を検討したため、副葬品における化粧道具位置付け、墓制の変遷、階層性、副葬品の変化など考慮すべき問題にはあまり踏み込んでいない。そのため、非常に雑駁な話になってしまった。これらの課題は、今後再整理したのち取り組んでいくこととしたい。

## 註

- (1) 仙台藩初代藩主伊達正宗・二代藩主伊達忠宗・三代藩主伊達綱宗の副葬品にも化粧道具（毛抜き含む）があることから、広い階層に普及している一方、引き続き大名クラスの日常品でもあったことがうかがわれる。
- (2) 秋山氏は短刀を20～30cm、小刀を刃渡り20cm以下と区別し、小刀は武器類とはみなしていない。
- (3) 報告書では「柳見たり」「花くれない」と判読しているが、筆者はむしろ「柳みどり」「花くれない」と判読した。この語句のほうがふさわしいと考えている。
- (4) 三島大社に伝わる梅蒔絵手箱には『白氏文集』に納められた詩の一節が散りばめられている（小松1989）。

## 文献（著者名・刊行機関名50音順、刊行年順）

青森県教育委員会（1999）『十三湊遺跡Ⅴ』（青森県埋蔵文化財調査報告第286集）  
 秋山浩三（1999）「古代の男性墓・女性墓－奈良・平安時代墳墓の副葬伴出品にみる性差－」『古代文化』VOL. 51－12、財団法人

古代学協会

磐田市教育委員会（1993）『一の谷中世墳墓群遺跡』（磐田市水堀土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書）  
 上ノ国町教育委員会（2005）『上ノ国勝山館跡X XⅥ』  
 小井川和夫（2004）「経ヶ峰伊達家三代墓所の調査」、江戸遺跡研究会編『墓と埋葬の江戸時代』吉川弘文館  
 岡山県教育委員会（1997）『小中遺跡・白澄古墳群・小中古墳群・湯ヶ澄古墳』（おかやまファーマーズ・マーケット建設に伴う発掘調査）  
 岡山県教育委員会（2005）『土井遺跡・谷の前遺跡・慶運寺跡』（主要地方道路佐伯長船線（美作岡山道路）道路改築に伴う発掘調査4）  
 加古千恵子・平田博之（1989）「多利・前田遺跡発見の中世土壇墓」『考古学雑誌』第74巻第4号、日本考古学会  
 久下 司（1970）『化粧』（ものと人間の文化史）法政大学出版局  
 高知県教育委員会・財団法人高知県文化財埋蔵文化財センター（2002）『野田遺跡Ⅰ』（土佐市バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ）  
 国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会（2006）『中野清水遺跡（3）・白枝本郷遺跡』（一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書7）  
 国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所・財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（2006）『高木古館遺跡・長根Ⅰ遺跡発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第472集）  
 国土交通省苫田ダム工事事務所・岡山県教育委員会（2005）『夏栗遺跡』（苫田ダム建設に伴う発掘調査5 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告194）  
 小松茂美編（1993）『石山寺縁起』（日本の絵巻16）、中央公論社  
 小松大秀（1989）『化粧道具』（日本の美術4 No275）至文堂  
 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター・国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所（2006）『河崎の柵掘定地発掘調査報告書』（岩手県文化財振興事業団埋蔵文化財調査報告書第474集）  
 財団法人大阪府文化財調査研究センター（2002）『大坂城址Ⅱ』（大坂城跡発掘調査報告書Ⅱ）  
 財団法人大阪府文化財センター（2006）『大坂城址Ⅲ』（大阪府警察本部棟新築2期工事に伴う発掘調査報告書）  
 財団法人京都市埋蔵文化財研究所（1990）『平安京右京三条三坊』（京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊）  
 財団法人京都市埋蔵文化財研究所（2009）『平安京左京四條四坊二町跡』（京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2008－12）  
 財団法人広島市歴史科学教育事業団（1993）『有井城跡発掘調査報告』  
 財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会（1987）『坂ノ上遺跡』山口県埋蔵文化財調査報告第101集）  
 汐留地区遺跡調査会（1996）『汐留遺跡』（汐留遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書）

- 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会（2011）『夏見城遺跡』（県営ほ場整備（経営体育成基盤整備）関係遺跡発掘調査報告書38-3）
- 澁澤敬三・神奈川大学日本常民文化研究所編（1990）『日本常民生活絵引』第三巻、平凡社
- 鳥根県教育委員会（1983）『富田川河床遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
- 辰野町教育委員会（1995）『堀の内居館跡』
- 東京国立博物館編（2000）『文化財保護法50年記念 日本国宝展』
- 東京都埋蔵文化財センター（1997）『汐留遺跡Ⅰ』（旧汐留貨物駅跡地内の調査）
- 東京都埋蔵文化財センター（2003）『汐留遺跡Ⅲ』（東京都埋蔵文化財センター調査報告第125集）
- 東京都埋蔵文化財センター（2006）『汐留遺跡Ⅳ』（東京都埋蔵文化財センター調査報告第189集）
- 鳥取県教育委員会（1997）『青木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
- 鳥取県埋蔵文化財センター・国土交通省倉吉河川国道事務所（2007）『門前第2遺跡Ⅱ』（一般国道9号（名和淀江道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XⅣ）
- 新村出編（1993）『広辞苑』第4版、岩波書店
- 日田市教育委員会（1998）『馬形遺跡』（日田市埋蔵文化財調査報告書第16集）
- 日本原子力研究開発機構・高エネルギー加速器研究機構・財団法人茨城県教育財団（2008）『村松白根遺跡2』（大強度陽子加速施設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ）
- 日本道路公団中国支社・鳥根県教育委員会（2001）『馬場遺跡発掘調査報告書』（中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書14）
- 日本道路公団東京第一建設局・財団法人千葉県文化財センター（1990）『佐原市吉原三王遺跡』（千葉県文化財センター調査報告第178集）
- 兵庫県教育委員会（1987）『多利遺跡群発掘調査報告』（近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財報告書Ⅶ）
- 兵庫県教育委員会（2004）『宿原寺ノ下遺跡』（兵庫県文化財調査報告第264冊）
- 兵庫県立考古博物館（2009）『津万遺跡群現地説明会資料』
- 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所（1993）『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅰ』
- 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所（1994）『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅱ』
- 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所（1995）『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅳ』
- 福井県教育委員会（1979）『朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅰ』
- 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター（2009）『福井城跡』（福井県埋蔵文化財調査報告書第109集）
- 福岡市教育委員会（1988）『都市計画道路博多駅築港線関係埋蔵文化財報告書Ⅱ 博多』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第184集）
- 福岡市教育委員会（1990）『都地・七反田遺跡』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第223集）
- ポーラ文化研究所（1989）『日本の化粧』
- 松尾 聡・永井和子訳注（1999）『枕草子』（新編日本古典文学全集18）小学館
- 森原明廣（2004）「山梨県北部における江戸時代墓地について」、江戸遺跡研究会編『墓と埋葬の江戸時代』吉川弘文館
- 山口市教育委員会（1988）『瑠璃光寺跡遺跡』（山口市埋蔵文化財調査報告書第28集）
- 和歌山県教育委員会・財団法人和歌山県文化財センター（1994）『根来寺坊院跡』（広域営農団地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書）

（ほり まさと：調査普及課 主任技師）

表1 出土毛抜き集成（1）

No.	遺跡名	所在地	時期	遺構	素材	長さ (cm)	形状	備考	文献
1	博多遺跡群	福岡県福岡市	12C中	木棺墓(683号土塚)	鉄	12	平行	鏡、櫛・鉄・毛抜き・櫛払い・刷毛	福岡市教育委員会1988
2	七区田遺跡	福岡県福岡市	12C	土壇墓(SR01)	鉄	(6.7)	平行	鏡、合子、小刀	福岡市教育委員会1990
3	馬形遺跡	大分県日田市	9C中～後半	土壇墓(1号墓)	鉄	(8.5)	平行		日田市教育委員会1998
4	斑ノ上遺跡	山口県山口市	16C	木棺墓(第55号墓)	鉄	12	楕形	紅皿	山口市教育委員会1988
5	坂ノ上遺跡	山口県下関市	室町末～江戸初	土壇墓(ST-102)	鉄	10.4	楕形	土皿皿	財団法人山口県教育財団1987
6	有井城跡	広島市佐伯区	16C	竪形通廊式遺構5号11	鉄	9.4	平行		財団法人広島市歴史科学教育事業団1993
7	草戸千軒町遺跡	広島県福山市	14C後半	土坑	鉄	10.3	平行		広島県草戸千軒町遺跡調査研究所1993
8	草戸千軒町遺跡	広島県福山市	14C後半	土坑	鉄	8.9	平行		広島県草戸千軒町遺跡調査研究所1994
9	草戸千軒町遺跡	広島県福山市	15後～16初	井戸	鉄	9.2	楕形	古銭(皇宋通宝等)	広島県草戸千軒町遺跡調査研究所1995
10	小中遺跡	岡山県岡山市	近世?	土壇墓(8)	鉄	10.5	楕形	寛永通宝2枚	岡山県教育委員会2005
11	夏栗遺跡	岡山県岡山市	18C後	土壇墓12	鉄	(7.9)	楕形	鏡、火打金、煙管	岡山県教育委員会2005
12	夏栗遺跡	岡山県岡山市	18C後	土壇墓16	鉄	9.2	平行	鏡、煙管	岡山県教育委員会2005
13	夏栗遺跡	岡山県岡山市	18C後	土壇墓23	鉄	9.85	平行	鏡、煙管	岡山県教育委員会2005
14	夏栗遺跡	岡山県岡山市	18C中	土壇墓24	鉄	8.8	平行	火打金、煙管、寛永通宝	岡山県教育委員会2005
15	夏栗遺跡	岡山県岡山市	18C中	土壇墓36	鉄	7.8	平行	煙管、寛永通宝	岡山県教育委員会2005
16	夏栗遺跡	岡山県岡山市	18C中	土壇墓38	鉄	(5.1)	平行	鏡、煙管、寛永通宝	岡山県教育委員会2005
17	夏栗遺跡	岡山県岡山市	18C中	土壇墓43	鉄	8.8	平行	鏡、煙管	岡山県教育委員会2005
18	夏栗遺跡	岡山県岡山市	18C中	土壇墓35	鉄	(6.9)	平行	鏡、煙管	岡山県教育委員会2005
19	夏栗遺跡	岡山県岡山市	18C中	土壇墓54	鉄	(5.3)	平行	鏡、煙管	岡山県教育委員会2005
20	夏栗遺跡	岡山県岡山市	18C中	土壇墓72	鉄	8.1	平行	鏡、煙管	岡山県教育委員会2005
21	夏栗遺跡	岡山県岡山市	18C中	土壇墓77	鉄	8.8	平行	鏡、煙管	岡山県教育委員会2005
22	夏栗遺跡	岡山県岡山市	18C中	土壇墓429	鉄	(5.3)	楕形	鏡、煙管	岡山県教育委員会2005
23	夏栗遺跡	岡山県岡山市	18C中	土壇墓47	鉄	(5.9)	楕形	鏡、煙管	岡山県教育委員会2005
24	土井遺跡	岡山県赤松郡瀬山町	17C後半	包含層	鉄	8.2	楕形	鏡、煙管	岡山県教育委員会2006
25	白枝木塚遺跡	島根県出雲市	17C中～18C	1号溝	鉄	8.2	楕形	鏡、煙管	島根県教育委員会2001
26	馬場遺跡	島根県三刀屋町	10C末～11C初め	木棺墓	鉄	8.5	平行	大刀、刀子、鉄、櫛、火打ち金、玉	島根県教育委員会1983
27	富田川河床遺跡	島根県能義郡広瀬町	17C初	S B 031	銅	8.4	楕形		島根県教育委員会1983
28	富田川河床遺跡	島根県能義郡広瀬町	16C後	包含層	鉄	8.8	平行	鏡、木製教珠・銅鏡・鎌	島根県教育委員会1983
29	門前第2遺跡	鳥取県西伯郡大山町	18C前～中	土壇墓(第55)	鉄	(8.4)	平行?	銅鏡と固着、布袋入り・鎌共伴	鳥取県埋蔵文化財センター2007
30	門前第2遺跡	鳥取県西伯郡大山町	18C前～中	土壇墓(第67)	鉄	(5.2)	平行?	銅鏡と固着、布袋入り・鎌共伴	鳥取県埋蔵文化財センター2007
31	門前第2遺跡	鳥取県西伯郡大山町	18C前～中	土壇墓(第80)	鉄	8.2	楕形	布付者・鉄	鳥取県埋蔵文化財センター2007
32	門前第2遺跡	鳥取県西伯郡大山町	18C前～中	土壇墓(第112)	鉄	8.2	楕形	銅鏡と固着、布・木製付着	鳥取県埋蔵文化財センター2007
33	門前第2遺跡	鳥取県西伯郡大山町	18C前～中	土壇墓(第129)	鉄	5.7	楕形	鏡、鉄、刀子、合子	鳥取県埋蔵文化財センター2007
34	門前第2遺跡	鳥取県西伯郡大山町	18C前～中	土壇墓(第132)	鉄	(3.5)	楕形	鏡、鉄、刀子、合子	鳥取県埋蔵文化財センター2007
35	青木遺跡	鳥取県米子市	鎌倉時代	土壇墓(OSX16)	鉄	8.5	楕形	白磁・鉄	鳥取県教育委員会 1977
36	野田遺跡	高知県土佐市	14C後半～15C	S K 1	鉄	9.1	平行	和鏡、皇宗通寶	高知県教育委員会 2002
37	野原寺ノ下遺跡	兵庫県三木市	12C中	木棺墓(SX205)	鉄	11.2	平行	鏡、鉄製毛抜き、鉄製刀子、小皿状の漆製品	兵庫県教育委員会2004
38	津名遺跡群	兵庫県西脇市	12C後	土壇墓	鉄		楕形	鏡、鉄、刀子、合子	兵庫県立考古博物館2009
39	多利・前田遺跡	兵庫県丹波市	12C後～13C前	土坑墓(SX1)	鉄	8.5	楕形	和鏡、和鉄、青白磁合子	和歌山県教育委員会 1987
40	根来寺坊院跡	和歌山県岩出市	17C	包含層	金銅製		楕形		財団法人大阪府文化財協会2004
41	大阪城下町跡	大阪府大阪市	17C	包含層	鉄?	7.9	楕形	句が彫金	財団法人大阪府文化財調査研究センター 2002
42	大阪城跡	大阪府大阪市	17C	包含層	鉄	9.2	楕形		財団法人大阪府文化財調査研究センター 2004
43	大阪城跡	大阪府大阪市	17C	包含層	鉄	7.6	楕形		財団法人京都府文化財調査研究センター 1990
44	平安京右京一条三坊十町遺跡	京都府京都市	10C後半	木棺墓	銅	7.1	楕形		財団法人京都府文化財調査研究センター 2009
45	平安京左京四条四坊二町跡	京都府京都市	16C末～17C前	土壇71	鉄	8	楕形	茶器と供伴	財団法人京都府文化財調査研究センター 2009
46	平安京左京四条四坊二町跡	京都府京都市	17C前	井戸4	鉄	7.2	楕形		財団法人京都府文化財調査研究センター 2009
47	夏見城遺跡	滋賀県湖南市	16C	区画溝(城址)	真鍮	8	楕形		滋賀県教育委員会2011
48	福井城	福井県福井市	17C後	圃池	鉄	7.2	楕形		福井県教育庁埋蔵文化財調査センター-2009
49	福井城	福井県福井市	16C後	包含層	鉄	9.1	楕形		福井県教育庁埋蔵文化財調査センター-2008
50	福井城	福井県福井市	16C後	包含層	鉄	8.6	楕形		福井県教育庁埋蔵文化財調査センター-2008

遺跡出土の化粧道具に関する覚書（堀 真人）

表2 出土毛抜き集成（2）

No.	遺跡名	所在地	時期	遺構	素材	長さ (cm)	形状	備考	文献
51	朝倉氏遺跡	福井県福井市	16C	外壕	鉄	7.3	楕形		福井県教育委員会1979
52	一の中世墳墓群遺跡	静岡県磐田市		354号墓	鉄	7.8	平行?		磐田市教育委員会1993
53	堀の内居跡	長野県原野町	15C後～16C	第1地下式坑	鉄	6.3	平行?		原野町教育委員会1995
54	沙留遺跡	東京都港区		脇坂屋敷	真鍮	7	楕形	重信?の文字	東京都埋蔵文化財センター1997
55	沙留遺跡	東京都港区		脇坂屋敷	真鍮	10.8	楕形	森重作?・田中の文字	東京都埋蔵文化財センター1997
56	沙留遺跡	東京都港区		脇坂屋敷	真鍮	8.5	楕形		東京都埋蔵文化財センター1997
57	沙留遺跡	東京都港区		脇坂屋敷	鉄	7.8	楕形		東京都埋蔵文化財センター1997
58	沙留遺跡	東京都港区		脇坂屋敷	真鍮	7.1	楕形	文字の彫り	東京都埋蔵文化財センター1997
59	沙留遺跡	東京都港区	18C後～19C前		銅	7.3	—		東京都埋蔵文化財センター1997
60	沙留遺跡	東京都港区		腰溜(伊達屋敷)	銅	7.7	楕形		東京都埋蔵文化財センター1997
61	沙留遺跡	東京都港区		瓦溜?(伊達屋敷)	真鍮	8.9	未定形		東京都埋蔵文化財センター1997
62	沙留遺跡	東京都港区		脇坂屋敷	鉄	8.6	未定形		東京都埋蔵文化財センター1997
63	沙留遺跡	東京都港区		脇坂屋敷	鉄	7.1	楕形		東京都埋蔵文化財センター1997
64	沙留遺跡	東京都港区		脇坂屋敷	銅	7.5	楕形		汐留地区遺跡調査会1996
65	沙留遺跡	東京都港区	18C後～19C前		銅合金(真鍮?)	8	楕形		東京都埋蔵文化財センター2003
66	沙留遺跡	東京都港区	17C末～19C前	保科家屋敷	銅合金(真鍮?)	7.2	楕形		東京都埋蔵文化財センター2003
67	沙留遺跡	東京都港区	17C後	保科家屋敷	銅合金(真鍮?)	6.2	楕形		東京都埋蔵文化財センター2003
68	沙留遺跡	東京都港区	17C後	保科家屋敷	銅合金(真鍮?)	5.8	楕形		東京都埋蔵文化財センター2003
69	沙留遺跡	東京都港区		伊達家屋敷	銅合金(真鍮?)	5.9	平行		東京都埋蔵文化財センター2003
70	沙留遺跡	東京都港区		伊達家屋敷	銅合金(真鍮?)	7.3	楕形		東京都埋蔵文化財センター2006
71	沙留遺跡	東京都港区		伊達家屋敷	銅合金(真鍮?)	8.3	楕形		東京都埋蔵文化財センター2006
72	沙留遺跡	東京都港区		伊達家屋敷	銅合金(真鍮?)	7.5	楕形		東京都埋蔵文化財センター2006
73	沙留遺跡	東京都港区	17C後	伊達家屋敷	銅合金(真鍮?)	7.7	楕形		東京都埋蔵文化財センター2006
74	吉原山王遺跡	千葉県佐原市	12C	土壇墓(50)	鉄	(5.4)	平行	鏡、鉄、短刀、合子	東京都埋蔵文化財センター1990
75	村松白根遺跡	茨城県那珂郡東海村		包含層	鉄	9.9	台形		財団法人茨城県教育財団2008
76	金谷遺跡	茨城県君津町	17C中	第30号墓壇	鉄	8	楕形	寛永通宝 煙管	財団法人茨城県教育財団2004
77	長根1遺跡	岩手県花巻市	17C末～	2号墓壇	鉄	8.9	楕形	煙管 銅水通宝 鉄	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006
78	河崎の棚板定地	岩手県東磐井郡河崎村	18C前	B区S27墓壇	鉄	8.8	平行	響 鏡 煙管 鉄漿壺 銭貨 合子	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006
79	河崎の棚板定地	岩手県東磐井郡河崎村	18C中	B区S27墓壇	鉄	7.9	平行	煙管 銭貨	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006
80	河崎の棚板定地	岩手県東磐井郡河崎村		B区S24墓壇	銅	9.4	楕形		財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006
81	河崎の棚板定地	岩手県東磐井郡河崎村	18C前	B区S25墓壇	鉄	8.8	平行	煙管 鏡 鉄 火打ち金 提灯	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006
82	河崎の棚板定地	岩手県東磐井郡河崎村	17C後	D区S21墓壇	鉄	8.7	楕形	煙管 響 銭貨	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006
83	河崎の棚板定地	岩手県東磐井郡河崎村	18C中～	D区S29墓壇	銅	7.4	平行	煙管 鏡 銭貨	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006
84	河崎の棚板定地	岩手県東磐井郡河崎村	18C後	D区S249墓壇	銅	8.7	平行	煙管 鏡 銭貨	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006
85	河崎の棚板定地	岩手県東磐井郡河崎村	17C後	D区S258墓壇	銅	9.1	楕形	煙管 銭貨	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006
86	河崎の棚板定地	岩手県東磐井郡河崎村	17C中	D区S265墓壇	銅	7.1	台形	煙管 銭貨	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006
87	河崎の棚板定地	岩手県東磐井郡河崎村	18C中	D区S288墓壇	鉄	7	平行	煙管 銭貨	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006
88	河崎の棚板定地	岩手県東磐井郡河崎村		E区S24埋土	銅	8.9	平行		財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006
89	河崎の棚板定地	岩手県東磐井郡河崎村	17C	01SD1溝	銅		平行	鏡、太刀、脇差、蜻蛉箱、鏡、煙管、ブローチ、硯、水瀝、篋入れ等、伊達正宗	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006
90	伊達家墓所	宮城県仙台市	17C	瑞正殿				鏡、太刀、脇差、扇、鳥帽子、伊達忠宗墓	小井川和夫2004
91	伊達家墓所	宮城県仙台市		感山殿		5.9		鏡、鏡差、扇、脇差、靴、鉄、刀子、篋、定規、合子、新皿等、伊達綱宗墓	小井川和夫2004
92	伊達家墓所	宮城県仙台市		善心殿		8.2	平行	鏡、鏡差、扇、脇差、靴、鉄、刀子、篋、定規、合子、新皿等、伊達綱宗墓	青森県教育委員会1999
93	十三漆遺跡	青森県北津軽郡市浦村	14C後半～15C後半	S K80	鉄	8.2	平行		上ノ国町教育委員会2005
94	上ノ国勝山館跡	北海道鶴山郡上ノ国町	15C中～16C初	135号墓	鉄	8.2	台形	北宋銭	

## 【編集後記】

本号は、当協会設立40周年を記念する特別号として、ボリュームアップをはかり、職員全員に投稿を呼び掛けたところ、総数17本を掲載することができた。

今回は、近年の注目すべき調査事例である東近江市相谷熊原遺跡に関連した3本の論考をまとめ、小特集とした。松室論文では、相谷熊原遺跡を縄文時代草創期と位置づける根拠となった「矢柄研磨器」について基礎的な検討を行っている。重田論文では、相谷熊原遺跡をはじめとする鈴鹿山中の諸遺跡について、選地原理の抽出を試みた。一方、出土遺物のなかでも特徴的な土偶について、瀬口論文では学説史をたどり、その評価の基礎固めをはかった。こうした検討を進めて、次年度以降、調査報告書刊行に向けて、整理調査を行っていききたい。

その他の論考は、時代・対象ともに実に多様なものとなった。縄文時代を対象としたものに、県内出土縄文土器の資料化と検討を行った小島論文、志那湖底遺跡出土岩田第4類土器群について検討を進めた小竹森論文がある。古墳時代では、辻川論文で県内出土埴輪の資料化と検討作業を行っている。古代を対象としたものには、これも近年の注目すべき調査事例－長浜市塩津港遺跡出土起請文木札に関し、基礎的な検討を行った濱論文や、柱穴構造から掘立柱建物の上部構造について意欲的に復元を試みた横田論文、県内に特徴的な飛雲文軒瓦の比較資料として三重県内の出土事例を報告した中西論文がある。中・近世を主な対象としたものとしては、湖南省夏見城遺跡出土毛抜きを位置づけることを目的として、毛抜きをはじめとした全国の化粧道具出土事例に関する検討作業をおこなった堀論文や、東近江市観音寺城遺跡の構造に関して再検討した伊庭論文、出土将棋駒を手掛かりに将棋史の一端に迫った三宅論文がある。さらに、阿刀論文では、滋賀県立安土城考古博物館での展示に携わったなかで見出された「忍者」研究について現状と課題がとりまとめられている。大沼論文では、琵琶湖を「文化遺産」として捉え、様々な側面からそれを構成する「資産群」の文化的価値について評価した結果、人類にとって「顕著な普遍的価値」を有する遺産であると結論付けている。具志堅論文では、当協会が重点的に推進する普及・活用・体験学習の一環として、本年度に実施した体験学習の内容と課題について報告し、中川論文では30年にわたる滋賀県における保存処理を振り返り、現状と課題を整理している。

近年、埋蔵文化財をはじめ文化財に対する需要は多様化し、求められる成果のレベルも高くなってきていることを痛感する。このようなニーズに的確に応じていくためには、職員一人一人の資質の向上が不可欠であることはいうまでもない。埋蔵文化財のみならず、地域の文化財の多様な側面に切り込み、その価値を見出すとともに、それを広く理解していただけるように伝える能力が今まで以上に必要となっている。本紀要も、そうした能力・経験・知識の獲得と蓄積、情報の発信の手段の一つとして位置付けている。

掲載論考の内容は未だ十分なものとはいえないことは承知しているが、読者の皆様には温かいご意見・ご批判を重ねてお願いする所である。

編集担当（T-T）

## 紀 要 第24号 —設立40周年記念号—

---

刊行年月日：平成23年（2011年）3月31日

編集・発行：財団法人滋賀県文化財保護協会

520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2

(tel) 077-548-9780 (fax) 077-543-1525 (e-mail) mail@shiga-bunkazai.jp

印刷・製本：三星商事印刷株式会社



**ANNUAL BULLETIN**  
of  
**Shiga Prefectural Association for Cultural Heritage**

**Vol.24 2011.3**

私たちは文化財をとおして  
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



財団法人滋賀県文化財保護協会  
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritage